

平成 26 年度公益社団法人日本地すべり学会
第 53 回研究発表会及び現地見学会
開催案内書



平成 26 年 8 月 / 茨城県つくば市

公益社団法人日本地すべり学会
第 53 回研究発表会及び現地見学会実行委員会

目 次

大会概要（日程・会場ほか）	1
会場案内	3
【県民講演会】親子で学ぼう 真夏の防災教室	12
参加者の方へ	13
開会式・表彰式・特別講演	16
研究発表会	17
発表者の方へ	24
若手ポスター賞とは	26
新技術紹介セッション	27
特別展示	28
意見交換会	29
【アトラクション】セグウェイ試乗体験	30
閉会式	31
現地見学会	32
ランドスライドフォトコンテスト	36
実行委員会	37
広告	

*参加者名簿は、個人情報保護の観点から、掲載しません。

平成 26 年度公益社団法人日本地すべり学会

第 53 回研究発表会及び現地見学会

1. 日程

平成 26 年 8 月 19 日(火)～8 月 22 日(金)

8 月 19 日(火) 「親子で学ぼう 真夏の防災教室」

13 : 00～16 : 30 (受付開始 12:30) 防災科学技術研究所

共催：独立行政法人 防災科学技術研究所

後援：つくば市教育委員会

8 月 20 日(水) 開会式・研究発表会・意見交換会

受付 8 : 30～17 : 00

開会式・表彰式・特別講演 9 : 30～12 : 00

研究発表会 13 : 00～17 : 00

(口頭発表、ポスター発表、新技術紹介)

意見交換会 18 : 00～20 : 00

8 月 21 日(木) 研究発表会・閉会式

受付 9 : 00～16 : 40

研究発表会 9 : 30～16 : 40

(口頭発表、ポスター発表、新技術紹介)

閉会式 16 : 40～17 : 00

8 月 22 日(金) 現地見学会

つくば駅 8:50 集合 9:00 出発 17:00 解散

A コース：斜面崩壊実験 (防災科学技術研究所) 見学

B コース：茨城県北ジオパークと震災復興

C コース：筑波山の成り立ちと土砂災害

2. メイン会場 (開会式・表彰式・特別講演、研究発表会、意見交換会)

つくば国際会議場 (茨城県つくば市)

〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2 丁目 20 番 3 号

TEL: 029-861-0001 FAX: 029-861-1209

URL <http://www.epochal.or.jp>

*つくばエクスプレスつくば駅 (秋葉原駅から 45 分) から徒歩 10 分

*つくば国際会議場周辺に有料駐車場があります。

主 催

公益社団法人日本地すべり学会

後 援

総務省消防庁

文部科学省

農林水産省

国土交通省

茨 城 県

つ く ば 市

協 賛

一般社団法人斜面防災対策技術協会関東支部

茨 城 県 地 質 調 査 業 協 会

協 力

一般社団法人つくば観光コンベンション協会

会場案内



(注) 料金は平成26年2月現在

図-1 つくばアクセスマップ

◎つくば国際会議場 <http://www.epochal.or.jp/>

◎つくば観光コンベンション協会 <http://www.ttca.jp/>



図-2 つくば国際会議場周辺マップ

つくばエクスプレス「つくば駅」から、徒歩で「つくば国際会議場」まで

- ①つくば駅改札口を出たら、進行方向右側に曲がりA3出口を上がります。
- ②A3出口を出るとつくばバスセンターです。ロータリーに沿って、右に曲がり待合室横を直進すると階段があります。
- ③階段を上り、遊歩道を直進します。途中で歩道橋があります。車道を渡り直進すると、つくば国際会議場のレストラン横入口があります。

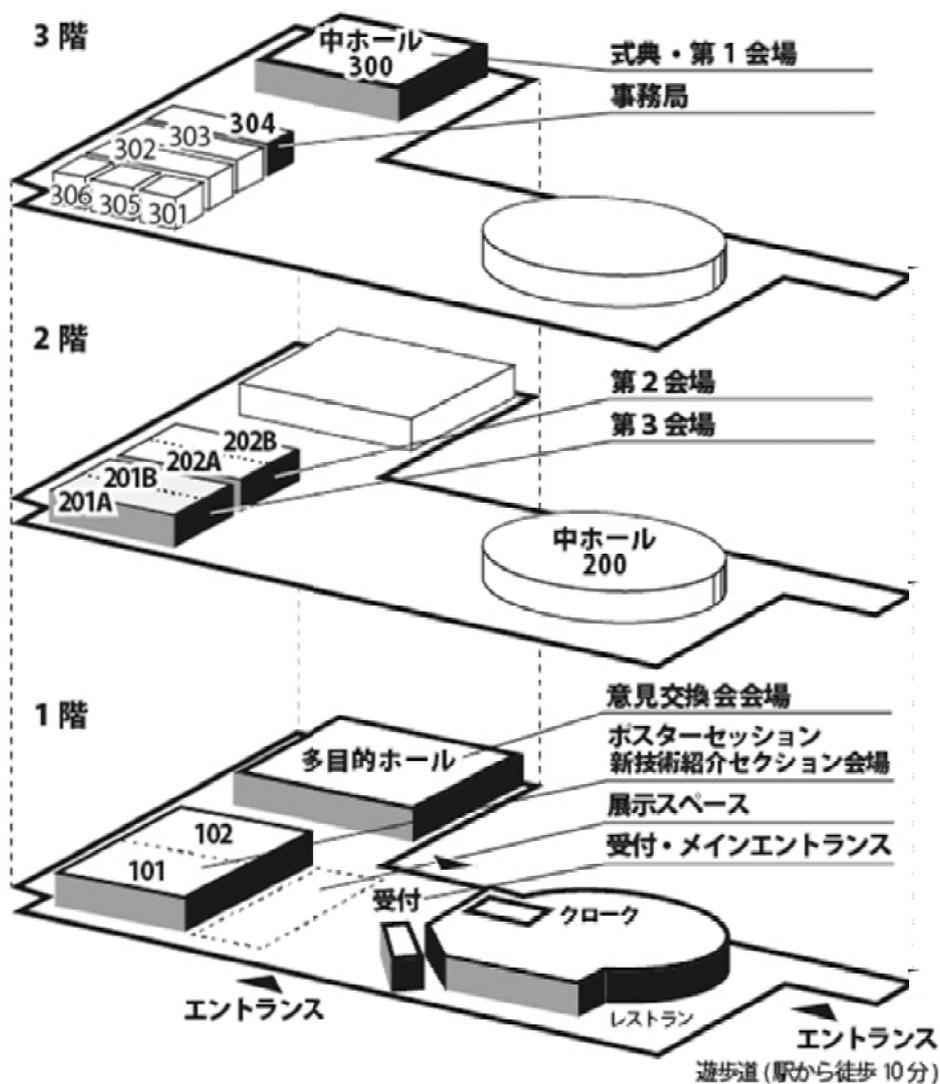


図-3 つくば国際会議場マップ

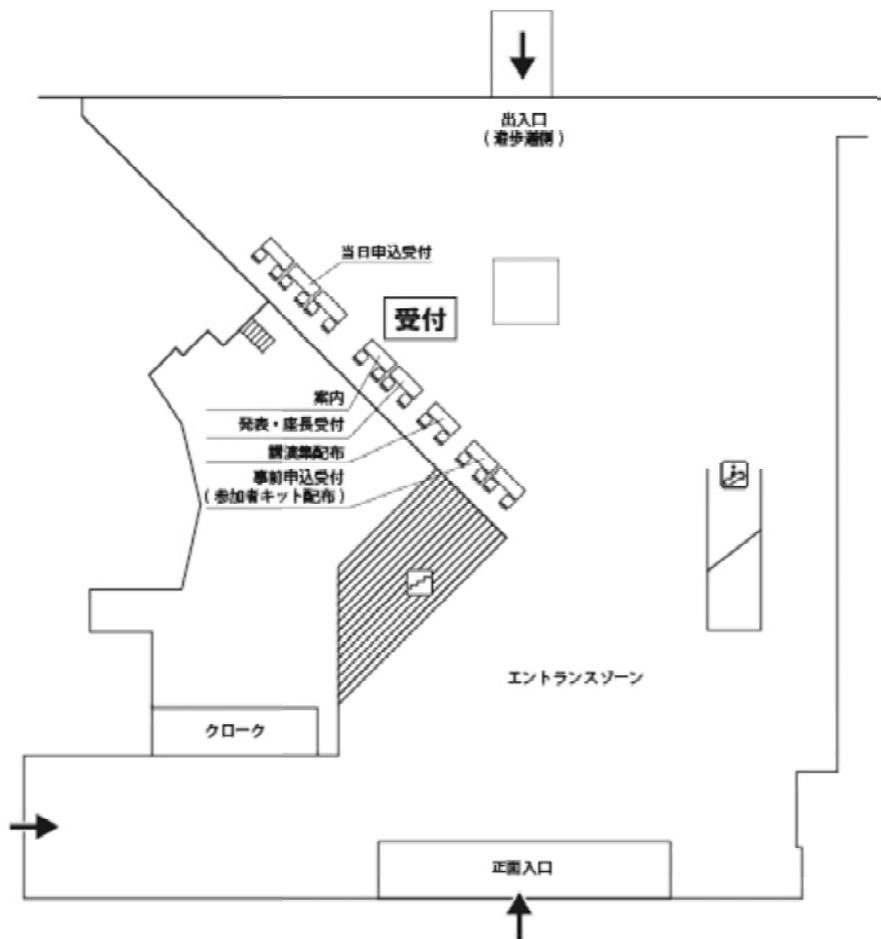
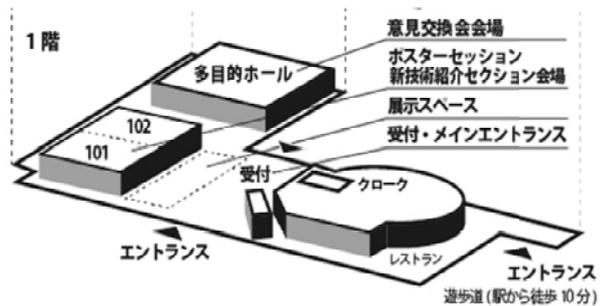
1階	エントランスホール	クローク、受付 (8月20日)
	大会議室 (101+102)	ポスター・新技术紹介セッション会場
	会議室前フロー	展示スペース (フォトコンテスト・特別展示) ドリンクコーナー
	多目的ホール	意見交換会会場
2階	中会議室(201, 202)	第2,3会場 (口頭発表会場)
	会議室前フロー	弁当配布コーナー
3階	中ホール 300	式典・第1会場 (口頭発表会場) *飲食禁止
	小会議室 304	事務局 (試写・発表データ受付など)

注) 1～3階の移動は、エスカレーター、エレベータ、階段があります。

注) 全館禁煙です。また、中ホール 300は飲食禁止です。

1階

- エントランスホール
- ポスター・新技術紹介セッション会場
- 展示スペース
- ドリンクコーナー
- 意見交換会会場



図一4 エントランスホール

- 受付の利用時間 8月20日 8:30~17:00 (エントランスホール)
*8月21日は事務局(3階)で対応
- クロークの利用時間 8月20日 8:30~20:30
8月21日 9:00~17:15

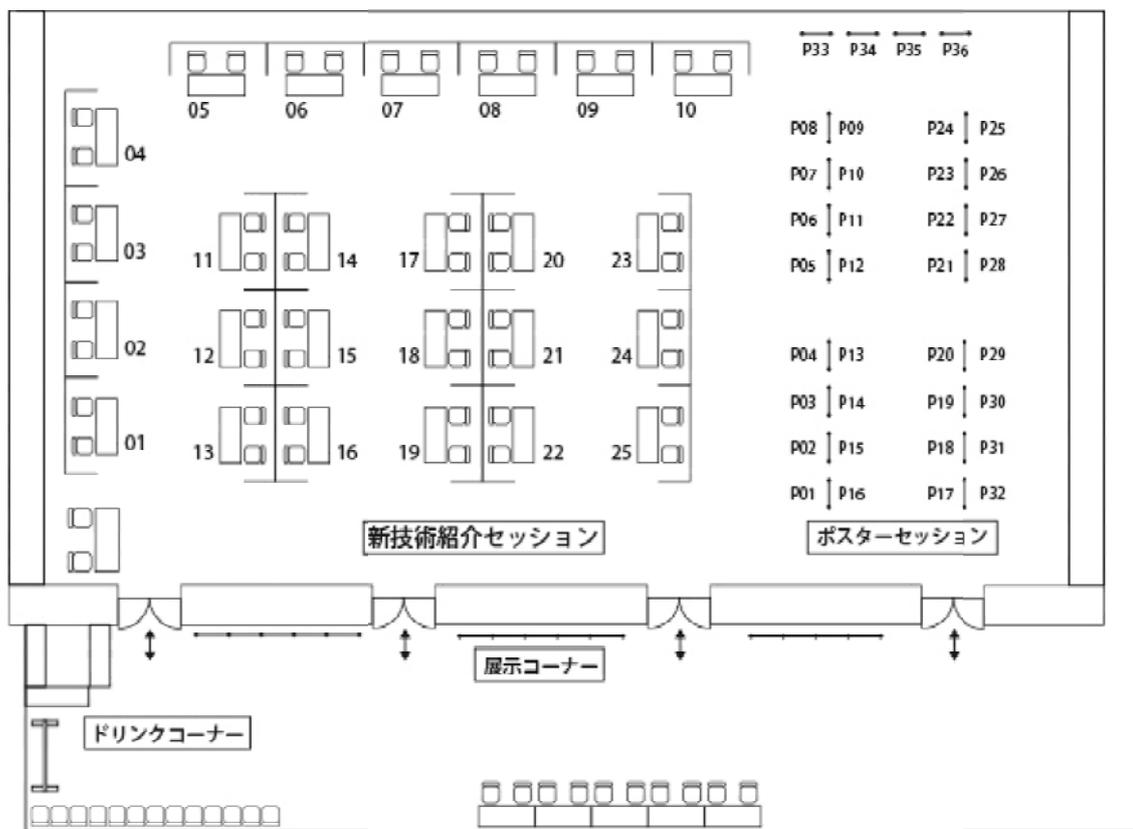


図 - 5 ポスター・新技術紹介セッション会場

● 展示期間

平成 26 年 8 月 20 日 (水) 13:00～8 月 21 日 (木) 16:45

準備 : 8 月 20 日 9:00～12:00 (受付開始 8:30)

展示 : 8 月 20 日 13:00～17:45

8 月 21 日 9:30～16:40 (受付開始 9:00)

ポスターセッションコアタイム :

8 月 21 日 13:10～14:15

撤去 : 8 月 21 日 16:45～17:45

● ドリンクコーナー

提供内容 : ホットコーヒー、アイス烏龍茶、ミネラルウォーター

提供方法 : テイクフリー方式 (無料)

提供予定時間 : 8 月 20 日 12:00～18:00 (予定数が無くなり次第終了)

8 月 21 日 9:00～16:40 (予定数が無くなり次第終了)

新技術紹介セッション参加団体

- 01：株式会社 オサシ・テクノス
- 02：KJS 協会・アンカー補修協会
- 03：岡三リビング 株式会社
- 04：アジア航測 株式会社
- 05：サンスイ・ナビコ 株式会社
- 06：古野電気 株式会社
- 07：SuperMCアンカー研究会
- 08：小断面トンネル排水工法研究会
- 09：既設アンカー緊張力モニタリングシステム（Aki-Mos）研究会
- 10：有限会社 ミヤコ興業
- 11：NMアンカー協会
- 12：株式会社 測商技研北陸
- 13：株式会社 横山空間情報研究所
- 14：北陽建設 株式会社
- 15：特殊な地すべり環境下で使用する観測装置の開発研究会
- 16：株式会社 東京電機
- 17：明治コンサルタント 株式会社
- 18：坂田電機 株式会社
- 19：KT B協会・PCフレーム協会
- 20：株式会社 きいすどん
- 21：株式会社 フォーラムエイト
- 22：斜面受圧板協会
- 23：応用地質 株式会社
- 24：フロテックアンカー技術研究会
- 25：株式会社 エスイー

2階

- 第2会場
- 第3会場
- 弁当配布コーナー

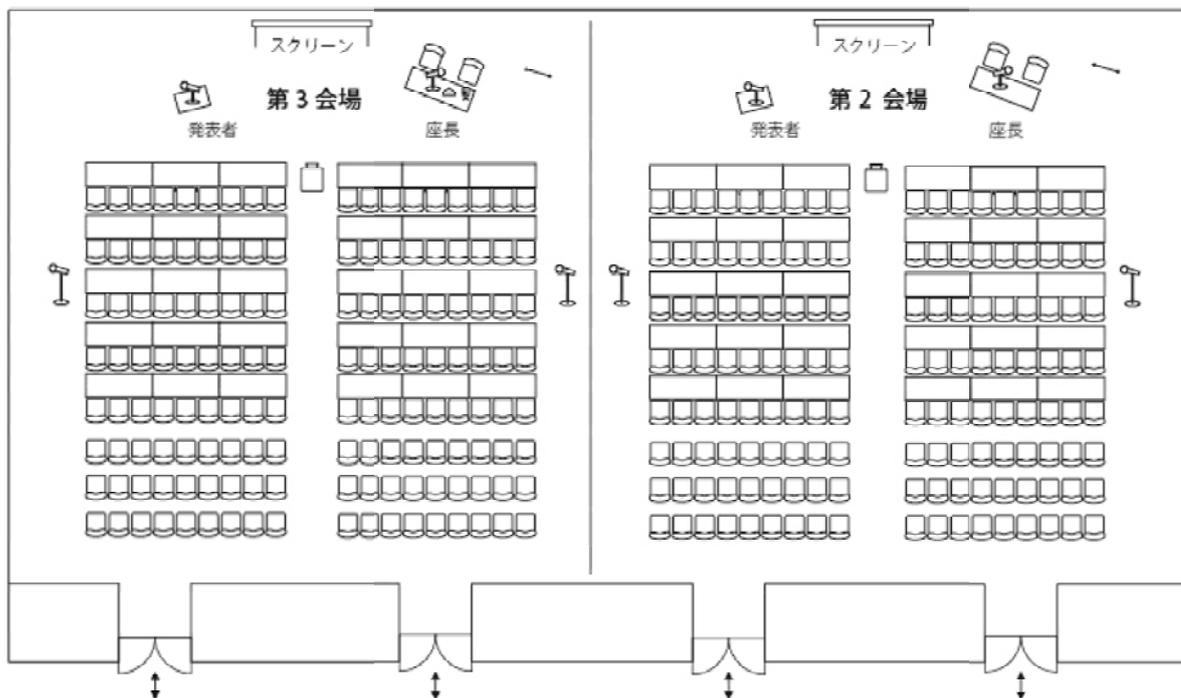
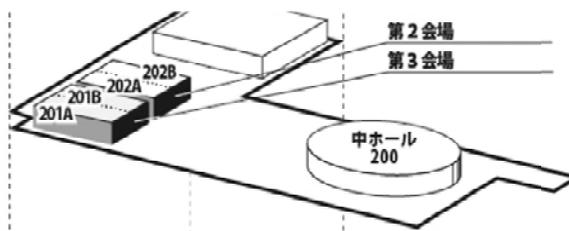


図-6 第2会場・第3会場（各150名）

● 弁当配布

事前申込で弁当を予約した方は、次のとおり、交換券と引き換えに、弁当をお受け取りください。

配布時間：

8月20日 12:00～13:00

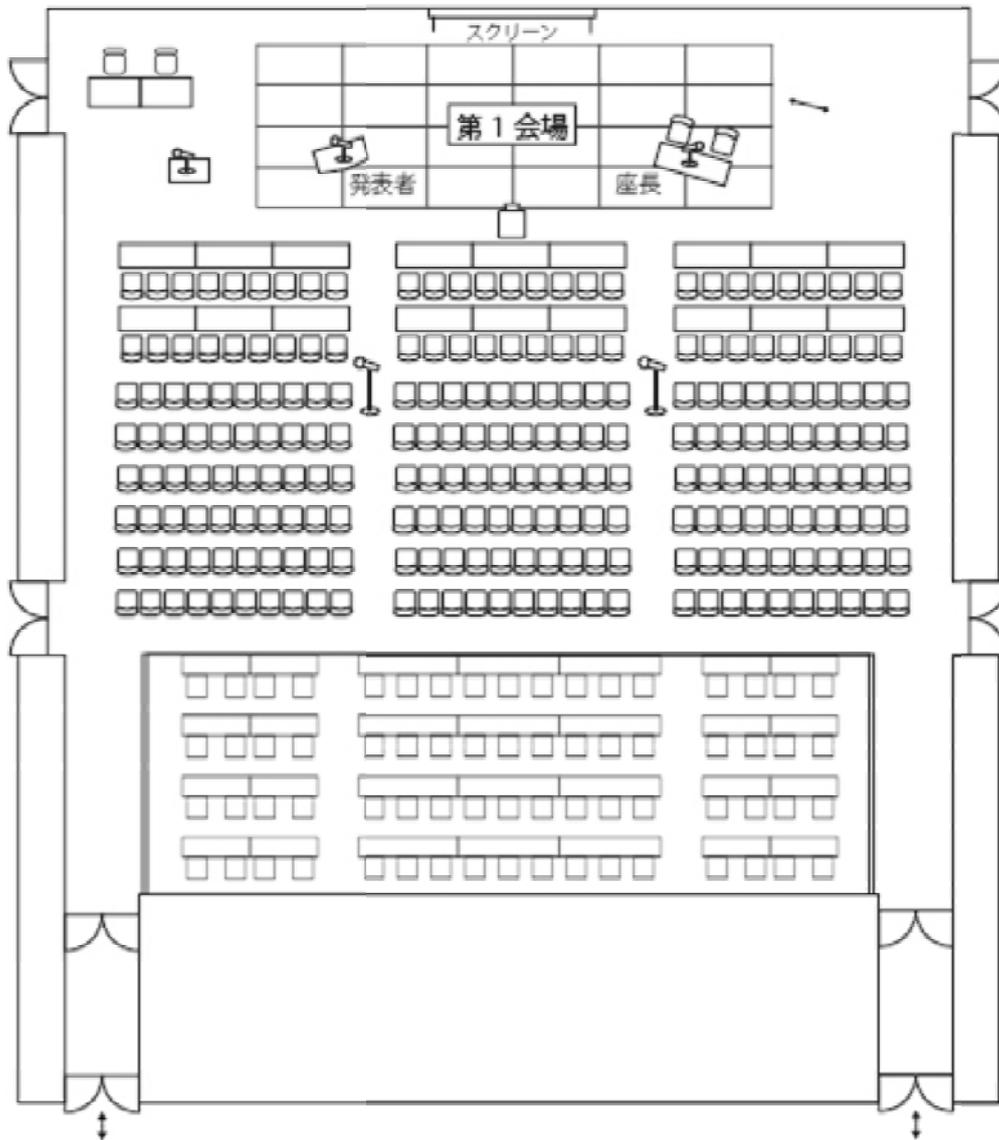
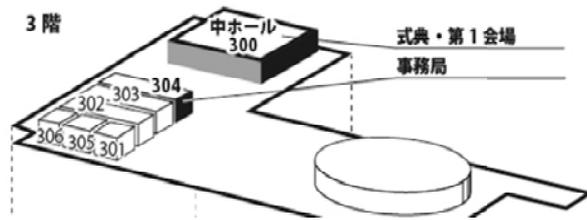
8月21日 12:10～13:10

配布場所：

2階弁当配布コーナー（第3会場前フロー）

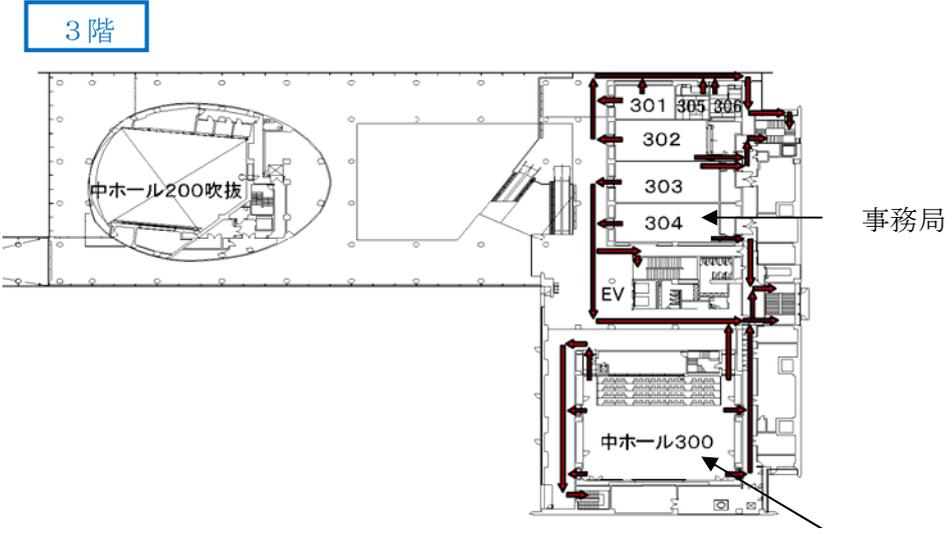
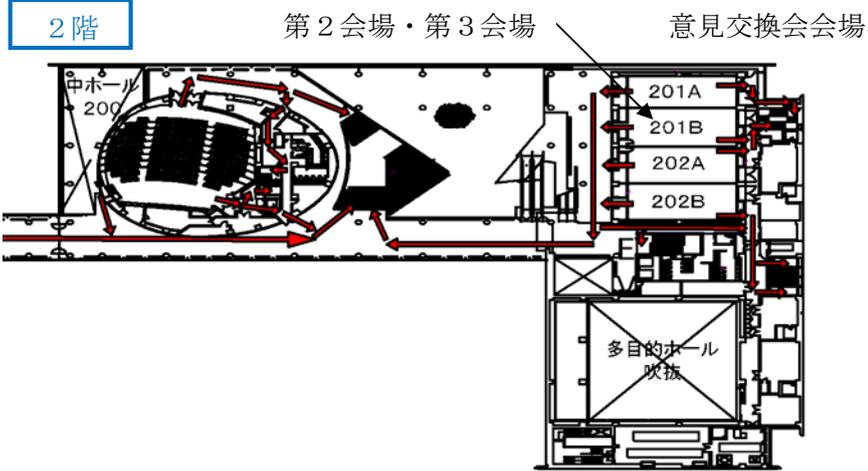
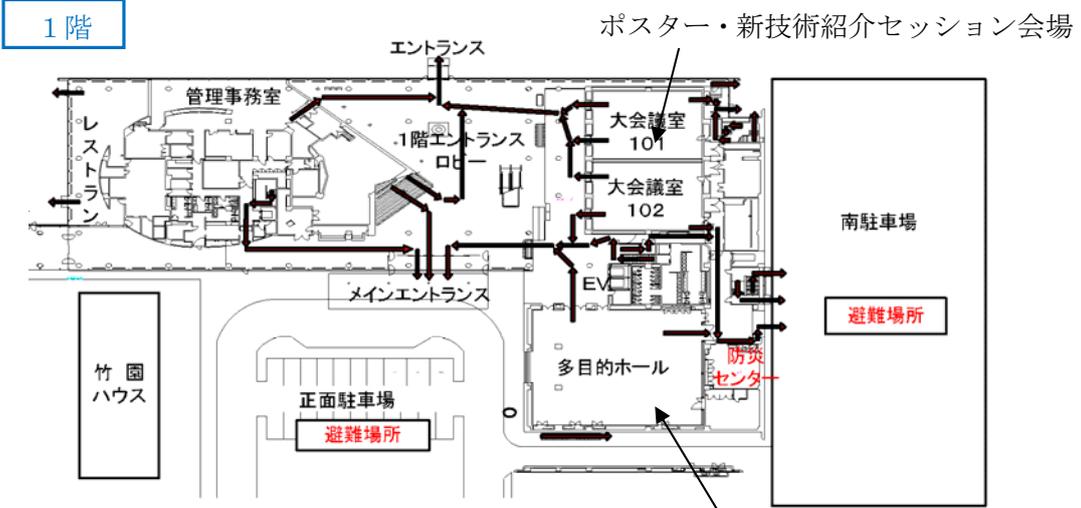
3階

- 第1会場（式典）
- 事務局（試写・受付）



図一七 第1会場(300名)
* 飲食禁止

- 事務局の利用時間
8月20日 8:30~17:45
8月21日 9:00~16:40



第1会場 (式典)

図一 8 避難経路図

【県民講演会】

親子で学ぼう 真夏の防災教室

共催：独立行政法人防災科学技術研究所

後援：つくば市教育委員会

1. 日時

平成 26 年 8 月 19 日（火） 13:00～16:30(集合 12:50)

2. 場所

独立行政法人 防災科学技術研究所 和達記念ホールほか
〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1

3. 主たる対象者

栃木県在住の小学生及び保護者（事前申込制）

4. 内容

1) 主催者挨拶 13:00～13:10

公益社団法人日本地すべり学会会長 土屋智

独立行政法人防災科学技術研究所理事長 岡田義光

2) 「科学実験から防災の理解を深める」 13:15～13:55

講師：納口恭明（独立行政法人防災科学技術研究所，Dr.ナダレンジャー）

3) 「模型を使い山崩れなどを直感的に理解する」 14:00～14:40

講師：藤井俊逸（株式会社 藤井基礎設計事務所，学会員）

4) 先生と一緒に遊ぼう 14:40～16:30

講師：納口恭明（独立行政法人防災科学技術研究所）

藤井俊逸（株式会社藤井基礎設計事務所）

小川泰浩（独立行政法人森林総合研究所）

参加者の方へ

1. 事前申込の受付について

- ・事前申込受付までお越してください。参加券の半券と引き換えで、参加者キット・名札を配布します。
- ・半券には、補助金の関係から、つくば市の宿泊数を記載してください。
- ・講演集の引換券をお持ちの方は、受付の配布場所にて引き換えてください。
- ・領収書が必要な方は、期間中に領収書発行申請を事務局に提出してください。

2. 当日申込の受付について

- ・当日申込受付までお越してください。申込用紙にご記入いただき、参加費をお支払ください。
- ・参加費のお支払いいただきましたら、領収書・参加者キット・名札を配布します。
- ・当日申込予約を行っている方は、返信メールのコピーを受付に提出して、参加費をお支払ください。申込書への記載は必要ありません。

3. 名札の携帯について

- ・会場内では、氏名を記載した名札を入れた名札フォルダーを首にかけて、ご携帯ください。
- ・会場に入る際に、名札を確認させていただく場合がございますので、ご協力ください。

4. 禁煙について

- ・メイン会場のつくば国際会議場は、すべて禁煙です。

5. 受付・事務局について

- ・受付は、次の日時・場所は次のとおりです。
 - 8月20日 8:30～17:00 エントランスゾーン（1階）
 - 8月21日 9:00～16:40 事務局（3階）
- ・事務局（3階）の利用時間は次のとおりです。
 - 8月20日 8:30～17:45
 - 8月21日 9:00～16:40

6. クロークについて

- ・クローク（1階）の利用時間は次のとおりです。

8月20日 8:30～20:30

8月21日 9:00～17:15

- ・クロークを利用する際には、名札を提示してください。
- ・貴重品は、預けないでください。
- ・時間になってもお引き取りのない荷物は、遺失物として扱います。
- ・クローク横に、コインロッカーも併設されております。また、意見交換会の際には、会場内に荷物置き場を設けます。

7. 昼食について

- ・事前に弁当を予約された方は、下記のとおり、引換券と引き換えにお渡しします。また、弁当の空き箱等につきましては、御面倒でも配布場所までお持ちください。

配布時間：8月20日 12:00～13:00

8月21日 12:10～13:10

配布場所：第3会場前フロー（2階）

- ・第1会場（3階）は、飲食禁止です。昼食時に飲食をされる方は、第2会場・第3会場（2階）を御利用下さい。

・

8. ドリンクコーナーについて

- ・ドリンクコーナーで次のサービスを行っておりますので、御利用ください。

提供場所：ポスターセッション会場前フロー（1階）

提供内容：ホットコーヒー、アイス烏龍茶、ミネラルウォーター

提供方法：テイクフリー方式（無料）

提供予定時間：8月20日 12:00～18:00（予定数が無くなり次第終了）

8月21日 9:00～16:40（予定数が無くなり次第終了）

- ・ご利用の際には、名札をご提示ください。

9. 駐車場について

- ・車でお越しの方は、会場周辺の有料駐車場をご利用ください。なお、会場に隣接して、南駐車場、北駐車場がございます。

10. 事務局からの連絡について

- ・事務局からの連絡は、連絡板（ホワイトボード）に掲示して行います。なお、館内アナウンスは一切行いません。

連絡板（ホワイトボード）の設置箇所

- ①第1会場入口付近（3階）
- ②第3会場前フローワー・弁当配布コーナー付近（2階）
- ③ポスターセッション会場内（1階）
- ④ポスターセッション会場前フローワー・ドリンクコーナー付近（1階）
- ⑤エントランスホール受付付近（1階）

【参考】参加費等

参加費

区分	研究発表会		意見交換会		現地見学会
	事前申込	当日申込	事前申込	当日申込	事前申込
正会員（個人）	7,000円	8,000円	6,000円	7,000円	6,000円
学生会員	1,000円	2,000円	2,000円	3,000円	3,000円
上記以外	8,000円	8,000円	7,000円	—	7,000円

注）意見交換会の当日申込は、人数を制限しております。

その他

区分	弁当	講演集（紙製本）
	事前申込	事前申込
参加者	1,000円/食	3,000円

開会式・表彰式・特別講演

1. 日時

平成 26 年 8 月 20 日（水） 9:30～12:00

2. 場所

つくば国際会議場・中ホール 300（3階）

3. 内容

1) 開会式 9:30～10:00

①開会の辞

②会長挨拶 会長 土屋智

③来賓挨拶 つくば市
農林水産省農村振興局

④来賓紹介

2) 表彰式 10:00～10:10

①審査報告 表彰委員長 丸井英明

②表 彰 技術報告賞 岡本有生（北海道夕張郡 栗山町）
査読者賞 濱崎栄作（株式会社アドバンテクノロジー）

3) 特別講演 10:20～12:00

①ジオパークによる地域振興—茨城県北ジオパークを例として—
10:20～11:10
天野 一男（茨城大学理学部，実行委員長）

②地震地すべりとそれに伴う地すべりダムの発生危険度評価
11:10～12:00
林 一成（奥山ボーリング株式会社，平成 25 年度研究奨励賞受賞者）

研究発表会

8月20日（水）の日程

区分	第1会場	第2会場	第3会場	ポスターセッション会場
	3階	2階		1階
9:00～				(準備)
9:30～ 10:10	開会式 表彰式			
10:20～ 12:00	特別講演			
12:00～ 12:55	(休憩)			
12:55～	学会編集委員会よりお知らせ			
13:00～ 16:55	13:00～14:12 事例報告①(4件) 1-1～1-4	13:00～14:12 調査計測①(4件) 2-1～2-4	13:00～14:45 特別セッション(5件) 地すべり施設の維持管 理① [地下水排除工] 3-1～3-5	展示
	14:20～15:32 事例報告②(4件) 1-5～1-8	14:20～15:32 調査計測②(4件) 2-5～2-8	14:50～16:55 特別セッション(6件) 地すべり施設の維持管 理② [アンカー工他] 3-6～3-11	
	15:40～16:52 事例報告③(4件) 1-9～1-12	15:40～16:52 調査計測③(4件) 2-9～2-12		
～17:45				

8月21日(木)の日程

区分	第1会場	第2会場	第3会場	ポスターセッション会場
	3階	2階		1階
9:25～	学会編集委員会よりお知らせ			
9:30～ 12:10	9:30～10:42 事例報告④(4件) 1-13～1-16	9:30～10:42 地すべり機構(4件) 2-13～2-16	9:30～10:42 特別セッション(4件) 火山とその周辺地域に おける斜面災害① 3-12～3-15	展示
	10:50～12:02 斜面安定(4件) 1-17～1-20	10:50～12:02 地すべり機構②(4 件) 2-17～2-20	10:50～12:10 特別セッション(3件) 火山とその周辺地域に おける斜面災害② 3-16～3-18	
12:10～ 13:10	(休憩)			
13:10～ 14:15				ポスターセッション コアタイム
14:15～ 16:29	14:15～15:27 調査計測④(4件) 1-21～1-24	14:15～15:27 地すべり機構③(4 件) 2-21～2-24	14:15～16:03 その他(6件) 3-19～3-24	展示
	15:35～16:29 調査計測⑤(3件) 1-25～1-27	15:35～16:29 地すべり機構④(3 件) 2-25～2-27		
～16:40				
16:40～ 17:00	閉会式 (ポスター賞表彰)			(撤去)
17:00～ 17:45				

第1会場

●8月20日(水) 13:00～14:12

【一般セッション: 事例報告①】

座長: 土志田 正二(消防庁 消防研究センター)

- 1-1 北海道, 長流川中流域の大規模地すべり(その3)
高岸の地すべり活動による河岸付近の複雑な挙動
- 1-2 石丸 聡(北海道立総合研究機構 地質研究所), 渡邊 達也, 田村 慎, 田近 淳
熔結凝灰岩急崖の岩盤崩壊: 2013年9月北海道層雲峡の例
- 1-3 田近 淳(株式会社すべり地域における最近の地すべり)
北海道オシロコシン地すべり地域における最近の地すべり
- 1-4 前田 寛之(札幌工科大学), 河野 勝宣
改良法による大規模崩壊の発生予測法—四万十帯を中心にして
- 1-5 林 拙郎(静岡大学防災総合センター), 菅沼 忠嗣

第1会場

●8月20日(水) 14:20～15:32

【一般セッション: 事例報告②】

座長: 荻田 茂(奥山ボーリング株式会社)

- 1-5 平成24年7月九州北部豪雨災害において発生した斜面崩壊の地域的差異
- 1-6 土志田 正二(消防庁 消防研究センター)
地すべり側部調査と多点温度検層の有効性
- 1-7 横山 賢治(日本エルダルト株式会社)
ボーリングコアに居られる地すべりのすべり層と移動地塊の礫形態の特徴
- 1-8 神原 規也(株式会社 エイト日本技術開発)
入谷地区における地すべり変動に関する広域水文指標の検討
- 1-9 中根 昌士(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター), 向井 啓司, 中谷 洋明

第1会場

●8月20日(水) 15:40～16:52

【一般セッション: 事例報告③】

座長: 神原 規也(株式会社 エイト新日本技術開発)

- 1-9 地震動の加速度・卓越周期が地すべり変動に与える影響
- 1-10 柴崎 宣之(独立行政法人 土木研究所), 石井 靖雄, 阿部 大志, 片岡 正次郎
地震地すべりの安定度評価手法に関する検討
- 1-11 道畑 亮一(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター), 相楽 渉, 綱木 亮介, 近藤 浩一
滝坂地すべりに関する大規模地震時の地震応答解析事例
- 1-12 山下 裕之(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター), 相楽 渉, 佐藤 直行, 丸山 準, 山路 広明, 青木 剛
芋川流域の地震地すべりに関する地盤状況と地下水水質の関係

第1会場

●8月21日(木) 9:30～10:42

【一般セッション: 事例報告④】

座長: 生島 潤一(日本工営株式会社)

- 1-13 ベトナムにおける地すべりの地形・地質的特徴
- 1-14 阿部 真郎(奥山ボーリング株式会社), Dinh Van Tien, Do Ngoc TRUNG, 藤井 登, 宮城 豊彦
ホンジユラス・テグシガルバ盆地における地すべり地形危険度評価のためのAHPモデル
- 1-15 八木 浩司(山形大学), 佐藤 剛

1-15 ホンジユラス国における地すべり調査と教育: JICA-SVの活動例として

- 1-16 廣田 清治(愛媛大学防災情報研究センター)
- 1-17 桐生市菱町で発生した山林火災と森林焼失斜面の状況
- 1-18 若井 明彦(群馬大学), 篠崎 智至, 住田 啓輔, 瀧野 誓将

●8月21日(木) 10:50～12:02

【一般セッション: 斜面安定】

座長: 中村 真也(琉球大学)

- 1-17 地すべり地形の安定化過程の表現
岩部 司(熊本高等専門学校), 大塚 悟
- 1-18 地すべりの変位速度と安全率の関連性に関する事例解析
石井 靖雄(独立行政法人 土木研究所), 森永 高行, 倉岡 千郎, 太田 敬一, 綱木 亮介
- 1-19 軸力が偏ったアンカー工の地すべり滑動時の軸力の変化
太田 敬一(日本工営株式会社)
- 1-20 “力のスカラール和”に関する地盤工学関連学会の混沌とその原因
榎田 充哉(国土防災技術株式会社)

●8月21日(木) 14:15～15:27

【一般セッション: 調査計測④】

座長: 高山 陶子(アジア航測株式会社)

- 1-21 斜面対策の意思決定に供する斜面評価方法
太田 英将(有限会社 太田ジオリサーチ), 高馬 太一, 金山 幸司, 熊本 清, 杉山 友康
- 1-22 小型UAVとSRMIによる斜面変動地形の三次元モデリング
内山 庄一郎(独立行政法人 防災科学技術研究所), 山村 充, 井上 公, 熊井 直也
- 1-23 UAV撮影画像解析結果を用いた堆砂量推定
山村 充(国土防災技術株式会社), 内山 庄一郎, 井上 公, 熊井 直也
- 1-24 地すべり臨界水位と最高水位時安全率
猿田 茂秀(日本エルダルト株式会社), 横山 賢治, 土屋 智

●8月21日(木) 15:35～16:29

【一般セッション: 調査計測⑤】

座長: 太田 英将(有限会社 太田ジオリサーチ)

- 1-25 遺跡の地盤と岩石・岩石の寿命
盛合 禎夫(東北工業大学), 松村 吉康
- 1-26 常時微動を利用した地震誘因地すべり斜面の振動特性について
梅村 順(日本大学), 川邊 洋
- 1-27 概成した地すべりに関する地震時の斜面変動発生状況調査
宮本 賢人(独立行政法人 土木研究所), 阿部 大志, 野田 稔久, 石井 靖雄

第2会場

●8月20日(水) 13:00～14:12

【一般セッション：調査計測①】

座長：柴崎 宣之(独立行政法人 土木研究所)

- 2-1 融雪に着目した地すべり地の地下水流動層調査
桂 真也(独立行政法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター)・木村 諒・丸山 清輝・池田 慎二・秋山 一弥・畠田 和弘
- 2-2 対策後の大規模地すべりの地下水環境
奥山 武彦(山形大学)・土原 健雄・石田 聡・白旗 克志・吉本 周平
- 2-3 大規模地すべりブロック上部における地下水流動解析のための比抵抗モニタリング
中里 裕臣(独立行政法人 農研機構 農村工学研究所)・井上 敬資・榎元 淳一・小野寺 孝一・西尾 克人・山科 真一
- 2-4 降雨・融雪による地すべり地における地下水位の予測、地下水文特性の評価解析
井藤 嘉教(株式会社 興和)・相楽 渉・綱木 亮介・越智 英人・吉松 弘行・丸井 英明

第2会場

●8月20日(水) 14:20～15:32

【一般セッション：調査計測②】

座長：千葉 伸一(応用地質株式会社)

- 2-5 結晶片岩地すべり地の水質分析調査結果について
末耨 章(京都大学)・日浦 啓全・小林 昌弘
- 2-6 滝坂地すべりに関するすべり面周辺の地下水水質特性
肥塚 高之(株式会社 興和)・山邊 康晴・丸山 準・伊藤 和弘・岡田 武・相楽 渉・丸井 英明
- 2-7 地すべり観測施設における積雪による影響と軽減への試み
高澤 忠司(株式会社 興和)・前田 光昭・塚田 光博・井藤 嘉教・山邊 康晴・丸井 英明
- 2-8 簡易傾斜監視装置の精度実験
納谷 宏(明治コンサルタント株式会社)・林田 昇・溝上 雅宏・松門 祐二・鎌野 浩之

第2会場

●8月20日(水) 15:40～16:52

【一般セッション：調査計測③】

座長：加藤 靖郎(川崎地質株式会社)

- 2-9 埋設型傾斜計を用いたまさ土斜面の降雨時せん断変形の観測
中井 真司(復建調査設計株式会社)・渡邊 聡・荏原 克夫・岩田 直樹
- 2-10 加速度センサーを用いた地盤傾斜計による地すべり観測の適用性について
三輪 賢志(独立行政法人 土木研究所)・小笠原 啓介・武田 大典・阿部 大志・石井 靖雄・西條 敦志
- 2-11 由比地すべりに関する観測・監視体制の強化に関する取組み(3)
一 地すべり監視におけるHDカメラの有効性について
齊藤 雅志(国土防災技術株式会社)・遠藤 久巳・村野 幸宏・寺田 秀樹・土佐 信一・高島 誠
- 2-12 すべり面せん断試験におけるすべり面供試体の位置合わせのずれが土質強度に及ぼす影響について
長谷川 陽一(国土防災技術株式会社)・毛利 貴子・柴崎 達也

第2会場

●8月21日(木) 9:30～10:42

【一般セッション：地すべり機構①】

座長：井藤 嘉教(株式会社 興和)

- 2-13 油谷湾層群における地すべりの一例
加藤 靖郎(川崎地質株式会社)・橋本 健史
- 2-14 大規模地すべりの運動機構に関する考察
荻田 茂(奥山ボーリング株式会社)・相楽 渉
- 2-15 長野県小谷村で発生した池原地すべり変動機構
児玉 浩(日本工営株式会社)
- 2-16 人工降雨実験におけるまさ土斜面の降雨浸透と側方流量の関係
岩田 直樹(中電技術コンサルタント株式会社)・柳崎 剛・梶山 敦司・渡邊 聡・丸岡 雄一郎・笹原 克夫

第2会場

●8月21日(木) 10:50～12:02

【一般セッション：地すべり機構②】

座長：荏原 克夫(高知大学)

- 2-17 Numerical modelling of water wave generated by the Gongjiafang landslide
XING Aiguo(上海交通大学)・Gonghui WANH・Yao JIANG
- 2-18 Stick-slip instabilities in sheared granular materials
JIANG Yao(Kyoto University)・WANG Gonghui・KAMAI Toshitaka
- 2-19 Mechanical characteristics of the August 6, 2012 Minata landslide, Shimane Prefecture, Japan
Do Ngoc Ha(Shimane University)・Fawu Wang・Yohei Kuwada
- 2-20 クロアチアザグレブ市背後丘陵地における表層崩壊危険度評価
王 純祥(新潟大学 災害・復興科学研究所)・丸井 英明・渡部 直喜・古谷 元

第2会場

●8月21日(木) 14:15～15:27

【一般セッション：地すべり機構③】

座長：古谷 元(富山県立大学)

- 2-21 簡易レーザー測距儀を用いた山上クラック帯の運動像解析—高知県の町代次の例—
光本 恵美(高知大学)・本間 こぎと・横山 俊治
- 2-22 新潟県金塚・段子差大規模地すべり地にみられる異常高圧塩水
一 地下水の塩分濃度と環境同位体組成からの証拠
渡部 直喜(新潟大学 災害・復興科学研究所)・佐藤 壽則・田村 優樹・知野 学
- 2-23 新潟県金塚・段子差大規模地すべり地における高塩分濃度地下水の湧昇課程
佐藤 壽則(株式会社 日さく)・小林 淳一・伊藤 健二・渡部 直喜
- 2-24 スマックタイトに富む粘土の残留強度の温度依存性とせん断速度との関係
柴崎 達也(京都大学 防災研究所)・長谷川 陽一・松浦 純生

第2会場

●8月21日(木) 15:35～16:29

【一般セッション：地すべり機構④】

座長：佐藤 壽則(株式会社 日さく)

- 2-25 断層粘土及び地すべり粘土の鉱物に関する研究—岩盤クリープの粘土生成過程と円形度の関係—
北澤 秋司(山地環境防災研究所)
- 2-26 中央構造線沿いの不安定斜面の抽出と評価—長野県伊那山地の調査事例—
下河 敏彦(株式会社 環境地質)・稲垣 秀輝
- 2-27 地下水位と地表面変位の同時計測に基づく斜面崩壊
荏原 克夫(高知大学)

●8月20日(水) 13:00～14:45

【特別セッション:斜面対策施設の維持管理①:地下水排除工】

座長:榎田 充哉(国土防災技術株式会社)・浅野 志穂(独立行政法人 森林総合研究所)

- 3-1 [招待発表]農地すべり防止施設の機能保全について
野中 陽子(農林水産省 農村振興局 農村環境課)・大塚 文哉・長田 実也
- 3-2 滝坂地すべり集水施設の機能保全
田中 靖政(日本工営株式会社)・丸山 準・伊藤 和弘・岡田 武・大河原 彰・馬場 貴志
- 3-3 ライナープレート集水井の腐食診断フローの提案
岩佐 直人(日鐵住金建材株式会社)・原田 剛男・渡邊 利一・前島 好孝
- 3-4 水抜きポーターリング工の排水流量モニタリングと維持管理への活用
土佐 信一(国土防災技術株式会社)・榎田 充哉・吾妻 耕一・土屋 智
- 3-5 変成岩地帯の地すべりにおける地下水排除工維持管理手法の一提案
井上 太郎(国土防災技術株式会社)・眞弓 孝之・北代 典史・山口 誠司
(討論・総括)

●8月20日(水) 14:50～16:55

【特別セッション:斜面対策施設の維持管理②:アンカー工他】

座長:石井 靖雄(独立行政法人 土木研究所)・茂木 俊(株式会社 日さく)

- 3-6 アンカー荷重と温度との相関関係を利用したのり面安定性評価
酒井 俊典(三重大学 大学院)・阪口 和之・磯嶋 治康・常川 善弘
- 3-7 旧タイプアンカーの更新工事に向けたアンカーのり面の施工管理技術について
常川 善弘(株式会社 相愛)・酒井 俊典・高梨 俊行・田口 浩史・山下 英二
- 3-8 グラウンドアンカーの緊張力変動を容易に把握する技術の開発
斎藤 春佳(株式会社 エスイー)・小林 亮太・竹家 宏治・芥川 真一
- 3-9 グラウンドアンカーのたわみ式荷重判定装置の載荷試験
中野 亮(日特建設株式会社)・芥川 真一・宇次原 雅之・竹家 宏治
- 3-10 群馬県内における道路吹付法面の劣化に関する要因の検討
島中 優(群馬大学 大学院)・若井 明彦・江口 喜彦・関 晴夫・宇次原 雅之・中野 亮
- 3-11 構造物点検における小型UAVによる低空撮技術の活用
今村 大地(株式会社 栄泉測量設計)・内山 庄一郎・古庄 広幸・宮崎 智弘・江山 栄一・梅田 篤
(討論・総括)

●8月21日(木) 9:30～10:42

【特別セッション:火山とその周辺地域における斜面災害①】

座長:落合 博貴(独立行政法人 森林総合研究所)

- 3-12 斜面形状とテフラ層堆積の面からみた斜面変動発生
檜田 大助(弘前大学)・八木 浩司
- 3-13 [招待発表]伊豆大島2014年台風災害の地形地質学的背景
千葉 達朗(アジア航測株式会社)
- 3-14 平成25年10月伊豆大島土砂災害の表層崩壊の発生機構
稲垣 秀輝(株式会社 環境地質)
- 3-15 平成25年伊豆大島災害における高速土砂流発生機構
福岡 浩(新潟大学)・アיתיカーニャ・ドク・王 純祥

●8月21日(木) 10:50～12:10

【特別セッション:火山とその周辺地域における斜面災害②】

座長:檜垣 大助(弘前大学)・佐藤 剛(帝京平成大学)

- 3-16 豪雨により発生した伊豆大島の土砂流動化現象について
王 功輝(京都大学 防災研究所)・江 耀・土井 一生・釜井 俊孝・王 功輝
斜面崩壊・土砂流動の特徴・分布
- 3-17 地震波形記録から推定される2013年10月16日の伊豆大島における
土井 一生(京都大学 防災研究所)・釜井 俊孝・王 功輝・森田 裕一
- 3-18 立山カルデラの今後の推移
野崎 保(野崎技術士事務所)
(討論・総括)

●8月21日(木) 14:15～16:03

【一般セッション:その他】

座長:山本 高司(川崎地質株式会社)

- 3-19 地すべりに対する地域防災力向上の検討 -中学校での学習会を通して-
桐生 朋(株式会社 興和)・檜垣 大助・浅野 和明
- 3-20 砂粒子の細粒化が浸透率に及ぼす影響 -メタンハイドレート貯留層における断層の評価に向けて-
木村 匠(独立行政法人 産業技術総合研究所 メタンハイドレート研究センター)・金子 広明・伊藤 拓馬・皆川 秀紀
- 3-21 地すべり移動体を構成する岩石の記載用語・成因用語の提唱
脇坂 安彦(独立行政法人 土木研究所)
- 3-22 積雪荷重が地すべり地の表層地盤へおよぼす影響
大澤 光(京都大学大学院)・松浦 純生・岡本 隆・柴崎 達也・松四 雄騎・寺嶋 智巳
- 3-23 地形解析に基づく融雪地すべりの流動化危険度評価の試み
木村 諒(独立行政法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター)・桂 真也・丸山 清輝・秋山 一弥・畠田 和弘
- 3-24 木製治山堰堤内の石礫の侵食耐性に関する実験
岡田 康彦(独立行政法人 森林総合研究所)

【ポスターセッション】

- P-1 ベトナムにおける地すべり早期警戒モニタリングシステムの考察
浅野 志穂(独立行政法人 森林総合研究所)・落合 博貴・永井 修・瀧本 圭介・阿部 真郎・佐々 恭二
- P-2 2014年3月22日のアメリカワシントン州のOso地すべりについて
王 純祥(新潟大学 災害・復興科学研究所)・福岡 浩
- P-3 岩壁・急峻斜面におけるローブアクセス技術の実用例
保形 昌昭(株式会社 きいすとん)・澤田 卓郎・木城 真澄・伊藤 徳光・中井 亮・中谷 登代治
- P-4 岩壁・急峻斜面における図面の表現手法
澤田 卓郎(株式会社 きいすとん)・保形 昌昭・木城 真澄・伊藤 徳光・中井 亮・中谷 登代治
- P-5 平成20年岩手・宮城内陸地震によるグラウンドアンカーの破損発生状況調査
野田 稔久(日特建設株式会社(元土木研究所交流研究員))・阿部 大志・宮本 賢人・石井 靖雄
- P-6 既存地すべり地形との比較による岩手・宮城内陸地震により発生した地すべりの規模と発生部位の特徴
ハス パートル(アジア航測株式会社)・高山 陶子・小野田 敏
- P-7 伊豆大島近海地震(1978)に発生した斜面災害の広域的再現
北村 和輝(群馬大学)・今泉 文寿・佐藤 剛・林 一成・若井 明彦
- P-8 地震によって火山灰被覆丘陵で発生する崩壊性地すべりの斜面地質調査による発生危険度評価
中野 英樹(独立行政法人 土木研究所(現 ㈱エイト日本技術開発))・杉本 宏之・柴崎 宜之・樽角 晃・石井 靖雄
- P-9 火山灰被覆丘陵における地震起因の斜面変動の土塊到達距離
杉本 宏之(独立行政法人 土木研究所)・柴崎 宜之・中野 英樹・樽角 晃・石井 靖雄・樽田 大助
- P-10 地震動による地すべり土塊のせん断挙動
丸山 清輝(独立行政法人 土木研究所)・桂 真也・秋山 一弥
- P-11 地震地すべり発生時の強度不連続面のせん断特性
山本 拓矢(山口大学)・鈴木 素之・大谷 直毅
- P-12 盛土斜面における地震動・間隙水圧応答の特徴
土井 一生(京都大学 防災研究所)・釜井 俊孝
- P-13 常時微動H/Vスペクトルに基づく宅地造成斜面に作用した強震動の事後評価
秦 吉弥(大阪大学)・駒井 尚子・常田 賢一・魚谷 真基
～1995年兵庫県南部地震によって被災した神戸市の造成宅地を例として～
- P-14 大規模地震による宅地造成斜面の崩壊範囲に関する事後評価とその推定式
駒井 尚子(大阪大学)・秦 吉弥・常田 賢一
- P-15 Damage and non-damage simulation of a residential fill slope during the past large-scale earthquakes
Katharina NIGGEMANN(アーンヘン工科大学(大阪大学))・駒井 尚子・秦 吉弥・常田 賢一
- P-16 斜面変形プロセス研究への宇宙線生成核種年代測定の実用
西井 稜子(独立行政法人 土木研究所)・松四 雄騎・松崎 浩之
- P-17 遷急線に着目したレーザプロファイラによる地すべり地形抽出事例
武田 大典(独立行政法人 土木研究所)・三輪 賢志・阿部 大志・小笠原 啓介・石井 靖雄
- P-18 斜め写真による三次元地形モデルを用いた斜面調査手法の検討
高山 陶子(アジア航測株式会社)・池田 辰也・川崎 正文・山口 由美子・藤田 安秀

- P-19 赤城山南麓の歴史地震痕跡分布とGISに基づく分析
亀山 ひろみ(群馬大学)・田畑 あすみ・若井 明彦
- P-20 2011年いわき地震で発生した地すべりの分布と三次元地震応答解析
佐藤 剛(帝京平成大学)・林 一成・八木 浩司
- P-21 地すべり危険度評価に用いる地形量としての山体釣鐘形状度の修正
林 一成(奥山ボーリング株式会社)・八木 浩司・佐藤 剛・今泉 文寿・樽田 大助
- P-22 白神山地すべり地の表層土砂の侵食特性
西川 優美(奥山ボーリング株式会社)・樽田 大助
- P-23 地すべりの動態観測結果に基づく面積ひずみと変位速度の関連性
森永 高行(独立行政法人 土木研究所)・小笠原 啓介・武田 大典・三輪 賢志・石井 靖雄
- P-24 新潟県沖見地すべりにおける移動量と間隙水圧の動態観測結果
秋山 一弥(独立行政法人 土木研究所) 雪崩・地すべり研究センター)・丸山 清輝
- P-25 部分ストレナーナ孔設置を目的とした連続スナップ孔内試験による水理地質調査
石井 靖雄(独立行政法人 土木研究所)・杉本 宏之・北原 哲郎・古島 広明・榎田 充哉・才田 誠
- P-26 1m深地温計測に基づく結晶片岩地すべりにおける流動地下水脈の動態
古谷 元(富山県立大学)・末峯 章・市川裕規・王 功輝
- P-27 水星北半球のクレーター周囲縁の地すべりの体積一見かけの摩擦角関係
福岡 浩(新潟大学)・
- P-28 ため池堤体に腹付したベントナイト遮水シートのすべりに対する安定性の検討
伊藤 潤(山口大学)・鈴木 素之・神山 惇・河内 義文・浦部 朋子
- P-29 C¹⁴年代測定を用いた地すべりの発生機構考察
坂 啓惟(日本工営株式会社)・岩佐 卓美・小俣 新重郎・宮永 悟
-新潟県高田平野東縁部の地すべりでの事例
- P-30 谷状の移送域を伴う地すべり地形の特徴に関する研究
島田 和弘(日本工営株式会社)・木村 詩・桂 真也
- P-31 平成25年台風26号伊豆大島土砂災害の発端となった斜面の表層崩壊の機構解析
深津 貴之(群馬大学)・若井 明彦・本明 将来・横内 啓隆・亀山 ひろみ・後藤 聡
- P-32 60年間に3度の大水害を挙げた京都府山城地域の記録
中島 美千代(日本工営株式会社)・西田 廣士・傍島 史宗・網野 功輔
- P-33 地すべり移動体及びすべり面の破砕・変形構造に関する指標の検討
樽角 晃(独立行政法人 土木研究所(現 応用地質株式会社))・杉本 宏之・中野 英樹・柴崎 宜之・石井 靖雄
- P-34 すべり面の樹脂固定コア試料作成で重要となる切断方法の選定
千葉 伸一(応用地質株式会社)・藤沢 和範・浅野目 和明・菅浦 幸男・星野 耕一・徳江 俊一
- P-35 樹脂固定標本によるすべり面付近の礫配列の観察
小笠原 啓介(独立行政法人 土木研究所)・坂野 弘太郎・杉本 宏之・石井 靖雄
- P-36 斜面の表層構造観察のための土壌モリス作成例
篠崎 智至(群馬大学)・若井 明彦・深津 貴之

●特別セッション1：斜面对策施設の維持管理

8月20日 13:00～16:55 第3会場（2階）

近年、社会資本の老朽化に伴いその維持管理が大きな問題となっています。地すべり対策施設でも、集水井・水抜きボーリング工、アンカー工などで劣化にと伴う性能低下が問題となっており、健全性の診断・評価手法や対策方法などについて研究や技術開発が進められています。老朽化が進む構造物の効率的な維持管理は、今後ますます重要性を増すと予想され、地すべりや斜面防災に関わる研究者・技術者も取り組んでいくべき重要なテーマであると考えます。このような状況を踏まえ、2014年度の日本地すべり学会茨城大会において「斜面对策施設の維持管理」をテーマとする特別セッションを開催します。

この特別セッションでは、地すべり対策工のほか、アンカー工、コンクリート吹付工、擁壁工といった斜面对策工も含め、構造物の老朽化の実態や劣化機構に関する研究成果、老朽化施設に対する調査・診断事例、補修補強など性能回復事例や、これらに関わる新技術等に関する発表をしていただき、今後の斜面对策施設の効率的な維持管理について議論を深めていただこうと考えています。多くの研究者・技術者の方々、また構造物の管理者の皆様のご参加を期待いたします。

●特別セッション2：火山とその周辺地域における斜面災害

8月21日 9:30～12:10 第3会場（2階）

近年、ゲリラ豪雨と通称されるような局地的な大雨による斜面災害が発生し、今後顕在化すると予想され極端気象により増加する可能性も懸念されています。さらに、昨年10月には、伊豆大島の降下火山砕屑物の堆積した急傾斜地において、豪雨による表層崩壊が多発し大規模な土砂災害を引き起こしました。

火山国であるわが国に多く分布する降下火山砕屑物の堆積域での局地的な豪雨の影響を考慮すると、火山とその周辺地域における斜面災害が発生する危険性を予測し、対策を講じておくことが重要な課題であり、これらの災害に対する研究をいっそう深化させる必要があります。このような状況を踏まえ、2014年度の日本地すべり学会茨城大会において「火山とその周辺地域における斜面災害」をテーマとする特別セッションを開催します。

この特別セッションでは、昨年伊豆大島で発生した斜面災害に携わった研究者だけでなく、地震時を含め火山砕屑物分布地域で発生する斜面崩壊、地すべり、土石流、山体崩壊等の斜面災害の研究および対策に携わっている研究者・技術者の方々にご参加いただき、議論を深めていただくことを期待しています。

発表者の方へ

1. 発表者受付等について

- ・口頭発表・ポスター発表ともに、参加者受付（事前申込受付もしくは当日受付）を済ませたあと、発表者受付へお越しください。
- ・口頭発表は、当該セッションの開始前までに発表者が受付を済ませていない場合は、発表取り消しとなる場合があります。ご注意ください。
- ・口頭発表は、昨年までの発表と異なり、指定時間までに提出いただいた口頭発表用データを、事務局が会場のパソコンに移行する方式ですのでご注意ください。

2. 口頭発表について

発表期間：8月20日(水)13:00～16:55, 8月21日(木)9:30～12:10, 14:15～16:29

発表場所：第1会場（3階）、第2会場・第3会場（2階）

口頭発表用データ受付場所：事務局（3階）

*事務局の対応時間：8月20日(水)8:30～17:45, 8月21日(木)9:00～16:40

- ・1題あたりの発表時間は、発表15分、討論・交代時間3分、計18分です。1鈴12分、2鈴15分(発表終了)、終鈴18分(討論終了)となります。
- ・発表時間枠が固定されていますので、発表者は発表時間を厳守して下さい。
- ・発表時間を超えた場合は、発表等を中止していただきます。
- ・口頭発表では、プロジェクターのみが使用できます。
- ・研究発表会事務局で用意するパソコン及びソフトウェア等の仕様は下記のとおりです。発表者は下記の仕様を参考に発表データを用意して下さい。(動画などの再生は原則できません)

●パソコン及びソフトウェア等の仕様

オペレーティングシステム: Windows 7 Professional(32bit)

CPU: インテル® Celeron® プロセッサ P4500 (2MB L2 キャッシュ、1.86GHz)

メモリ: 2GB (2048MB×1) 1066MHz DDR3-SDRAM

プレゼンテーションソフト: Microsoft PowerPoint 2010

入力可能な付属ドライブの種類: CD-ROM ドライブ, USB2.0 コネクター

使用可能なフォント: Microsoft Windows の標準フォント(MS明朝、MSゴシック等)

- ・口頭発表用データの受付は事務局（3階、小会議室304）にて行います。

- ・試写用パソコンは、口頭発表用データの受付を行う事務局（3階）に3台用意します。
- ・口頭発表用データは、提出前に必ず動作確認を行い、不具合が生じた場合修正してください。
- ・口頭発表用データは、事前に必ずウイルスチェックをお済ませください。ウイルス感染が確認されたファイルは受け取ることが出来ません。
- ・口頭発表用データのファイル命名規則は、「発表者番号+発表者名+拡張子」とします。

例) 09-09 天野.ppt

- ・口頭発表用データはUSBメモリまたはCD-Rにて、各セッションの開始1時間前までに、事務局までお持ちください。なお、研究発表会2日目の初めのセッションでご発表の方は、1日目の17:30までとします。
- ・口頭発表用データは、スタッフが事務局から各会場のパソコンに転送します。
- ・各自の発表者番号や発表時間は、別途掲載するプログラムで確認して下さい。
- ・発表者は発表の3番前までに自身の発表会場で待機するようにして下さい。

3. ポスター発表について

展示期間：8月20日(水)13:00～17:45, 8月21日(木)9:30～16:40

準備：8月20日(水)9:00～12:00 撤去：8月21日(木)16:45～17:45

コアタイム（説明・討論）8月21日(木)13:10～14:15

展示場所：ポスター・新技術紹介セッション会場（1階）

展示パネルの大きさ：展示パネル（巾90cm×高さ210cm） 1枚

*押しピン（画鋲）使用可

*左上に展示番号を示す紙（A4横）が貼られます。

- ・発表者は、指定の展示パネルに、調査・研究内容を示したポスター等を展示してください。
- ・発表者は、コアタイム(8月21日(木)13:10～14:15)の間、各自の掲示の場所で、質疑・討論に対応して下さい。
- ・前方に大きく突出して通行を妨げるものを展示することはできません。
- ・貴重品の破損、紛失等については責任を負いかねますので、ポスター周辺に放置しないよう各自十分気をつけて下さい。
- ・ポスターは展示終了後各自の責任で片づけて下さい。残っているポスター等については破棄する場合があります。

若手ポスター賞とは

1. 対象

ポスターセッションの若手発表者

なお、若手発表者とは、発表時点において35才未満の筆頭発表者（正会員または学生会員）であり、ポスターを作成しコアタイムに発表を行った者に限ります。また、過去に同表彰を受けた方は、選考の対象になりません。

2. 選考と表彰

実行委員長から委嘱された審査員により、①ポスター展示、②コアタイムの発表・討議、③調査研究の内容と将来性について、若手ポスター賞の選考を行います。選考は、正会員と学生会員に分けて行います。

受賞者は、閉会式において公表し表彰を行います。

3. 賞

若手ポスター賞 2～3名

受賞者は、閉会式において発表し、表彰状と副賞を贈呈します。

過去の受賞者

受賞年度	題名	氏名	所属
平成 23 年度	長久保地すべりにおける地質構造解析と地下水流路の検討	室田真宏	国土防災技術(株)
	珪砂・ドライアイス混合飲料のすべり面液状化および速度効果とメタンハイドレート気化による大規模海底地すべり	津久井敦也	京都大学大学院
	由比地すべりにおける地震を考慮した対策工の設計に関する事例報告	加藤誠章	(財)砂防・地すべり技術センター
平成 24 年度	山形県七五三掛地すべりにおける地形解析による大規模地すべり文化プロセスの推定	西川裕輔	(株)日さく
	単純せん断試験による結晶片岩中に形成されたすべり面(層)の残留強度評価	長谷川陽一	国土防災技術(株)
平成 25 年度	豪雪地帯における地すべり移動体の浸透能試験	大澤光	京都大学大学院

注) 所属は受賞時のもの

新技術紹介セッション

1. 日時

展示期間：8月20日(水)13:00~17:45,

8月21日(木)9:30~16:40

準備：8月20日(水)9:00~12:00

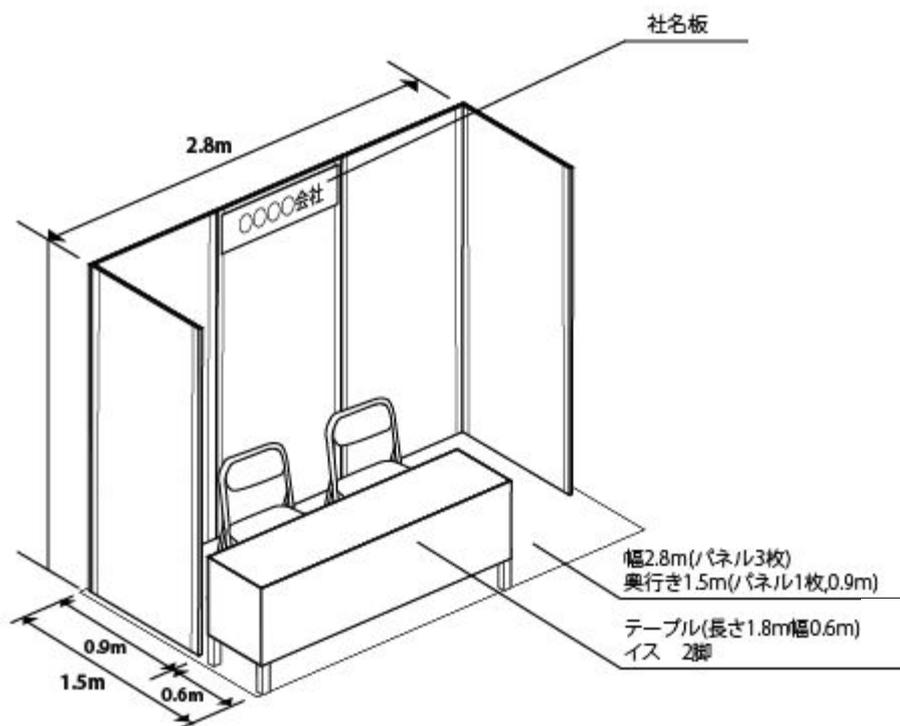
撤去：8月21日(木)16:45~17:45

2. 場所

つくば国際会議場、ポスター・新技術紹介セッション会場（1階）

3. 参加団体

25団体、「会場案内」参照



発表ブースの大きさ：間口約2.8m×奥行き約1.5m

発表ブースの標準図

特別展示

1. 日時

展示期間：8月20日(水)13:00～17:45,

8月21日(木)9:30～16:40

準備：8月20日(水)9:00～12:00

撤去：8月21日(木)16:45～17:45

2. 場所

つくば国際会議場、ポスター・新技術紹介セッション会場前フロー（1階）

展示パネルの大きさ：展示パネル（巾90cm×高さ210cm）

3. 参加機関・題名

特別展示の参加機関・題名

区分	参加機関	題名
1	群馬県 環境森林部 森林保全課	県西部で発生した隣接する2つの地すべりの特徴
2	神奈川県 県土整備局 河川下水道部 砂防海岸課	箱根の温泉地すべり
3	山梨県 砂防課	楠甫地区のアンカー工健全度調査
4	茨城県立土浦第三高等学校	茨城県の地学教育の現状
5	茨城県立境高等学校	茨城県南西部、境町における洪水予測図の作成
6	日本緑化工学会 斜面緑化研究部会	緑化工における外来種利用の現状と課題 － 生物多様性保全に配慮した緑化への発展 －
7	日本地すべり学会 関東支部災害調査団	2013年台風26号による伊豆大島の斜面災害
8	独立行政法人森林総合研究所	2014年7月9日に長野県南木曾町で発生した土石流災害の現地調査結果

意見交換会

1. 日時

平成 26 年 8 月 20 日（水） 18:00～20:00

2. 場所

つくば国際会議場・多目的ホール（1階）

3. 内容

- ①開会の挨拶 実行委員長 天野一男
- ②歓迎の挨拶 つくば市
- ③来賓紹介
- ④フォトコンテスト入賞作品発表
- ⑤次期開催地代表者挨拶
- ⑥乾杯 副会長・関東支部長 落合博貴
—歓談—
- ⑦中締め 会長 土屋智
- ⑧閉会

4. 注意事項

- ・名札（赤ないし黄色）の入った名札フォルダーを必ず携行し係員に提示してください。指定の名札のない方は、入場できませんので、ご注意ください。
- ・冒頭に、セレモニー（挨拶・紹介等）を行います。
- ・会場内に、荷物置き場を設置します。

【アトラクション】

セグウェイ試乗体験

1. 日時

平成 26 年 8 月 21 日（木） 11:45～14:45

開始時間（15 分×12 コマ）

11:15,12:00,12:15,12:30,12:45,13:00,13:15,13:30,13:45,14:00,14:15,14:30

2. 場所

竹園公園（つくば国際会議場隣接地、徒歩 1 分）

3. 定員

60 名（予約制）

4. 資格

- ・発表会の参加者であること（参加証を確認します）
- ・普通自動車免許取得者であること（免許証を確認します）
- ・同意書を提出した者であること（整理券とともに配布します）

5. 参加方法

- ・下記のとおり、予約を受けて整理券を配布します。

日時：平成 26 年 8 月 21 日（木） 9:00～11:45

場所：つくば国際会議場・エントランスホール（1 階）受付

- ・指定された時間までに、試乗場所にお越しくください。その際に、整理券、同意書（必要事項を記入したもの）、運転免許証をご持参ください。

6. 注意事項

- ・雨天時には、試乗を中止します。
- ・試乗は、1 人 1 回を原則とします。
- ・説明も含めた所要時間は 15 分です。1 人あたりの試乗時間は 5 分程度となります（2 人に 1 台程度）。
- ・セグウェイの試乗は、インストラクターが指導します。インストラクター及び係員の指示に従って行動してください。
- ・整理券を持たない方の試乗は、お断りします。

閉会式

1. 日時

平成 26 年 8 月 21 日（木） 16:40～17:00

2. 場所

つくば国際会議場・中ホール 300（3階）

3. 内容

- ①若手ポスター賞表彰式
- ②閉会の挨拶

現地見学会

1. 日時

平成 26 年 8 月 22 日(金) 9:00～17:00

2. コース

A コース：斜面崩壊実験（防災科学技術研究所）見学

B コース：茨城県北ジオパークと震災復興

C コース：筑波山の成り立ちと土砂災害

3. 集合

つくば駅改札口付近 8:50 集合、9:00 出発、17:00 解散

1) 集合場所では、担当幹事に、参加チケットを提示して確認をうけてください。担当幹事は、腕章をしています。

・集合場所：つくばエクスプレス・つくば駅、改札出口周辺

・腕章の色：Aコース＝緑色 Bコース＝青色 Cコース＝赤色

2) 集合場所からは貸切バスで移動します。出発時間になりましたら、担当幹事が集合場所からバスまで案内します。

4. 注意事項

1) ヘルメットを貸し出しますので、現場等では着用してください。

2) 原則として、雨天決行ですので、雨具をご持参ください。

3) 外を歩ける服装、足ごしらえ、飲み物などは、各自でご準備ください。

4) 天候や現地の状況により、コース、時間等を変更することがあります。

5) 参加者は、原則として、国内旅行傷害保険に加入します。

5. 行事の中止について

悪天候、交通止めなどについては、コース等を変更するなどの対応をとり、行事を実施します。

ただし、災害発生など、安全上重大な問題が生じると判断される場合は、現地見学会を中止することがあります。その場合は、次のように連絡します。

・前日（8月21日）の午後5時まで：各フロアにある掲示版（ホワイトボード）に掲示するほか、閉会式において連絡します。

・前日午後5時以降：ホームページに掲載するとともに、集合場所において担当幹事が対応します。

A コース「斜面崩壊実験（防災科学技術研究所）見学」

大型降雨実験施設は、豪雨を原因とする自然災害の防止・軽減を目的として昭和49年に運用を開始しました。自然の降雨状態を再現する降雨装置としては世界最大の規模です。防災科学技術研究所では、この大型降雨実験施設を利用して、豪雨によって発生する土砂災害や、洪水・浸水災害等について、基礎から応用研究まで広く進めてきました。特に土砂災害研究では、普段見ることのできない崩壊の瞬間を観察できるため、貴重なデータを提供してきました。

この大型降雨実験施設は、5つの実験区画と移動降雨装置、ポンプ制御棟、貯水槽から構成されています。移動降雨装置は降雨散水面積44m×72m、降雨強度15～200mm/hr、雨滴粒径0.1～2.2mm、雨滴落下高16mという規模・能力を有しています。この装置により、降雨強度だけでなく、雨滴の大きさや落下速度を自然の状態に近づけることが可能となります。平成25年度には、近年多くみられるゲリラ豪雨にも対応できるように、降雨強度及び粒径が以前よりも大きくなるように改良を行っています。

現地見学会では、この施設にて、「ゲリラ豪雨」と「実際に雨を降らせて行う斜面崩壊実験」を見学します。特に通常は公開していない崩壊実験では、実験用の計測システムや崩壊する瞬間を見学することが可能です。また、防災科研での地すべり関連研究の見学も予定しています。

なお、実際に崩壊実験を行いますので、状況によっては待ち時間が長かったり、

時間内で崩壊しないこともあります。なお、実験は、防災技術科学研究所・森林総合研究所・日本地すべり学会の共同研究として行われます。

【予定コース】

つくば駅8:50集合～防災科学技術研究所大型降雨実験施設～つくば駅17:00解散



大型降雨実験施設全景



ゲリラ豪雨見学

◆実験スタッフ

斜面モニタリング研究会（関東支部）

◆崩壊実験協力企業

株式会社オサシ・テクノス

大起理化工業株式会社

明治コンサルタント株式会社

アジア航測株式会社

復建調査設計株式会社

日本工営株式会社

B コース「茨城県北ジオパークと震災復興」

茨城県北ジオパークは、2011年に、日本ジオパークとしての公式認定を受けました。様々な地質、自然、文化的遺産により構成されており、古生代から現代まで5億年におよぶ日本列島の歴史に触れることが出来るジオパークです。一方で、同地域では東日本大震災では大きな被害を被っており、復興のための活動や、自然災害と地質・地形との関係を学ぶための取り組みもはじまっています。

現地見学会では、「茨城県北ジオパークと震災復興」をテーマに茨城県北ジオパークを見学します。はじめに、五浦海岸ジオサイトにおいて五浦海岸の地層や波の浸食により形成された地形について見学します。また、同ジオサイトには茨城大学五浦美術文化研究所や近代日本美術の発展に大きな功績を残した岡倉天心が晩年居を構えた六角堂があります。これらは2011年東北地方太平洋沖地震の際に津波被害を被りました。この被害の要因の一つである地形と津波の浸水高の違いや、同地域における近年のめざましい復興への取り組みについても見学します。

その後、日本四大鉱山のひとつである日立鉱山を有し、工業都市として発展した日立ジオサイトへ移動します。ここでは、日立鉱山の歴史や模擬坑道、鉱石標本、煙害問題への取り組みなどが展示されている日鉱記念館を見学します。さらには、日本最古である5億年前の地層（カンブリア紀の花崗岩）の露頭の見学をします。

【予定コース】

つくば駅 8:50 集合～五浦海岸（北茨城市）
～日鉱記念館（日立市）～かみね公園頂上

～つくば駅 17:00 解散



五浦海岸の地層



日鉱記念館

◆講師

天野一男氏（茨城大学）

田切美智雄氏（日立市郷土博物館）

Cコース「筑波山の成り立ちと土砂災害」

筑波山は、関東平野の北東部に単独峰としてそびえ、古来から名山として知られています。筑波山山頂部には白亜紀後期の斑レイ岩類、周囲には古第三紀の花崗岩類という、日本列島の基盤をなす古い時代の地質が分布しています。加えて、新第三紀における日本列島の形成や第四紀、特に最後の氷河時代から現在に至る関東平野の形成史を示す地層が観察できるなど、筑波山を中心としたその周辺地域は、豊富で希少なジオ資源を有しています。近年では、日本百名山にも選ばれ、ジオパークとしての認定を目指して地域ぐるみで取り組みを行っています。

現地見学会では、「筑波山の成り立ちと土砂災害」をテーマに筑波山ジオパーク候補地を見学します。はじめに、つつじヶ丘からロープウェイで筑波山山頂まで登り、山頂付近のジオサイトで筑波山を形成する斑レイ岩類を見学します。

その後、山麓に広く分布する土石流堆積物を観察します。ケーブルカーで筑波山神社まで下山し、筑波山千寺沢の砂防堰堤群を見学します。千寺沢では昭和13年に、集中豪雨によって山津浪（当時は土石流が一般に認知されてなかった）による災害の発生が記録されています。この災害を機に昭和14～18年に整備された当該溪流の砂防堰堤群は、平成23年に土木学会選奨土木遺産として認定されています。筑波山周辺では、昭和22年のカスリン台風や昭和54年台風20号豪雨でも土石流が発生しています。

最後に筑波山梅林へ移動し、斑レイ岩類の巨岩を含む土石流堆積物を観察します。ここでは、角閃石の巨晶を特徴的に含む斑レイ岩類を採取することもできます。

【予定コース】

つくば駅8:50集合～筑波山つつじヶ丘～筑波山山頂～筑波山神社～千寺川砂防堰堤群～筑波山梅林～つくば駅17:00解散



筑波山



筑波山梅林の土石流堆積物

◆講師

酒井彰氏（産業技術総合研究所地質標本館）

ランドスライドフォトコンテスト

1. 主催者

公益社団法人 日本地すべり学会 第53回研究発表会及び現地検討会実行委員会

2. 撮影対象（テーマ）

斜面崩壊及び災害、防災対策（ソフト対策を含む）、関連する調査・研究をとらえたもの
なお、ここでいう斜面崩壊とは、地すべり、崩壊、落石、土石流など、「岩、土あるいはその混合物の斜面下降運動」全般をさします。

3. 応募作品

- 1) 普通写真またはデジタル写真とし、カラー・白黒は問いません。
- 2) 応募者自身が撮影した未発表作品に限ります。
- 3) 応募は一人3点までとします。
- 4) 応募作品は、A4サイズ(210mm×297mm)にプリントあるはプリンタで写真用紙に印刷したものとしてします。

4. 審査と表彰

実行委員長から委嘱された審査員により、①学術的、技術的、教育的な価値、②芸術性、③PR効果について、一次審査、二次審査を行います。

一次審査を通過した応募作品は研究発表会会場において展示します。なお、できるだけ多くの作品を展示するよう配慮いたします。

また、一次審査を通過した応募作品には二次審査がおこなわれ、実行委員会により入賞を決定します。入賞作品については、研究発表会において表彰するほか、ホームページ上にて公表します。

5. 賞

最優秀賞・優秀賞 1～2点

入賞作品は、意見交換会（8月20日）において、発表します。

入賞作品の応募者（撮影者）は、実行委員会より表彰状と副賞を贈呈します。

6. 写真の展示

一次審査を通過した応募作品は、ポスター・新技術紹介セッション会場前の展示スペースに展示します。

実行委員会

第 53 回研究発表会及び現地見学会実行委員会名簿

1. 委員会

区分	氏名	所属	備考
委員長	天野一男	国立大学法人 茨城大学	
副委員長	落合博貴	独立行政法人 森林総合研究所	副会長
副委員長	中里裕臣	独立行政法人 農研機構農村工学研究所	専務理事
委員	若井明彦	国立大学法人 群馬大学	理事
委員	小山内信智	独立行政法人 土木研究所	
委員	岩波越	独立行政法人 防災科学技術研究所	
委員	渡辺真人	独立行政法人 産業技術総合研究所	
委員	村岡清隆	国土地理院	
委員	倉岡千郎	日本工営株式会社	
委員	桜井清仁	応用地質株式会社	
委員	寺田秀樹	国土防災技術株式会社	
委員	長卓良	つくば市	
監事	綱木亮介	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター	理事
監事	佐藤尚弘	明治コンサルタント株式会社	

2. 幹事会

区分	氏名	所属	備考
幹事長	櫻井正明	株式会社 山地防災研究所	理事
副幹事長	宇次原雅之	日特建設株式会社	
副幹事長	小林豊	日本サーベイ株式会社	
副幹事長	酒井直樹	独立行政法人 防災科学技術研究所	
幹事	佐藤 剛	帝京平成大学	
幹事	三輪賢志	独立行政法人 土木研究所	
幹事	井上敬資	独立行政法人 農研機構 農村工学研究所	
幹事	岡田康彦	独立行政法人 森林総合研究所	
幹事	小川明穂	独立行政法人 森林総合研究所	
幹事	石田博文	群馬県	平成26年3月まで
幹事	太田敬一	日本工営株式会社	
幹事	小野田敏	アジア航測株式会社	
幹事	今野幸喜	国土防災技術株式会社	
幹事	木村勝美	株式会社 ダイヤコンサルタント	平成26年6月から
幹事	梶山國博	株式会社 ダイヤコンサルタント	平成26年6月まで
幹事	平木慎一	株式会社 日さく	
幹事	本間宏樹	応用地質株式会社	平成26年3月まで
幹事	樽角晃	応用地質株式会社	平成26年4月より
幹事	滝口潤	明治コンサルタント株式会社	
幹事	林一成	奥山ボーリング株式会社	
幹事	坂爪賢介	株式会社 オサシ・テクノス	
幹事	浦元啓	日本工営株式会社	

3. 事務局

区分	氏名	所属	備考
事務局員	佐竹亮一郎	群馬大学	
事務局員	芦澤拓八	群馬大学	
事務局員	大淵亮	群馬大学	
事務局員	ハスバートル	アジア航測株式会社	
事務局員	高堂陶子	奥山ボーリング株式会社	
事務局員	長谷川 雄一	国土防災技術株式会社	
事務局員	藤原直	明治コンサルタント株式会社	
事務局員	若命省吾	帝京平成大学	
事務局員	阿部拓実	応用地質株式会社	
事務局員	松田伸一		
事務局員	梶山國博	株式会社 ダイヤコンサルタント	現地見学会担当
事務局員	櫻井眞	東北芸術工科大学	県民講演会担当

平成 26 年度事業計画部名簿

区分	氏名	所属	備考
部長	浅野志穂	独立行政法人 森林総合研究所	平成 26 年 4 月より
部長	中里裕臣	独立行政法人 農研機構 農村工学研究所	平成 26 年 4 月まで
副部長	宇次原 雅之	日特建設株式会社	
副部長	山本高司	川崎地質株式会社	
幹事	生島潤一	日本工営株式会社	
幹事	井上宏	日本工営株式会社	
幹事	稲葉一成	新潟大学	
幹事	梶原康男	国土防災技術株式会社	
幹事	相楽渉	一般社団法人砂防・地すべり技術センター	
幹事	佐藤剛	帝京平成大学	
幹事	関晴夫	日本サーベイ株式会社	
幹事	土志田 正二	消防庁消防研究センター	
幹事	野澤忠明	株式会社 エスイー	
幹事	馬場俊行	国際航業株式会社	
幹事	三輪賢志	独立行政法人 土木研究所	
幹事	茂木俊	株式会社日さく	
幹事	森屋洋	奥山ボーリング株式会社	
幹事	川邊洋	新潟大学	
幹事	中村直登	日本工営株式会社	
幹事	原田敏雄	株式会社エスイー	



平成 26 年 8 月 19 日発行

公益社団法人日本地すべり学会第 53 回研究発表会及び現地見学会実行委員会
〒105-0004 東京都港区新橋 5 丁目 26 番 8 号(新橋加藤ビル)

TEL : 03-3432-1878 FAX:03-5408-5250

開会式・表彰式・特別講演

1. 日時

平成 26 年 8 月 20 日（水） 9:30～12:00

2. 場所

つくば国際会議場・中ホール 300（3階）

3. 内容

1) 開会式 9:30～10:00

①開会の辞

②会長挨拶 会長 土屋智

③来賓挨拶 つくば市
農林水産省農村振興局

④来賓紹介

2) 表彰式 10:00～10:10

①審査報告 表彰委員長 丸井英明

②表 彰 技術報告賞 岡本有生（北海道夕張郡 栗山町）
査読者賞 濱崎英作（株式会社アドバンテクノロジー）

3) 特別講演 10:20～12:00

①ジオパークによる地域振興—茨城県北ジオパークを例として—
10:20～11:10
天野 一男（茨城大学理学部，実行委員長）

②地震地すべりとそれに伴う地すべりダムの発生危険度評価
11:10～12:00
林 一成（奥山ボーリング株式会社，平成 25 年度研究奨励賞受賞者）